

②家族

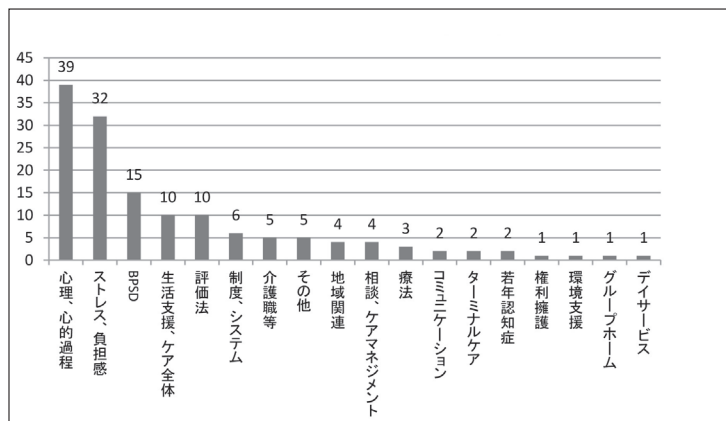
②-1 他の研究内容との重複

家族に関連する研究108件のうち重複している研究内容では、最も多いのは「心理、心的過程」が39件で36.1%となっている。次いで「ストレス、負担感」が32件(29.6%)となっている。さらに「BPSD」が15件(13.9%)、「生活支援、ケア全体」、「評価法」がともに10件(9.3%)、「制度、システム」6件(5.6%)と続いている。

表②-1 他の研究内容との重複件数 (N=108)

研究内容分類	件数	重複割合 (%)
心理、心的過程	39	36.10%
ストレス、負担感	32	29.60%
BPSD	15	13.90%
生活支援、ケア全体	10	9.30%
評価法	10	9.30%
制度、システム	6	5.60%
介護職等	5	4.60%
その他	5	4.60%
地域関連	4	3.70%
相談、ケアマネジメント	4	3.70%
療法	3	2.80%
コミュニケーション	2	1.90%
ターミナルケア	2	1.90%
若年認知症	2	1.90%
権利擁護	1	0.90%
環境支援	1	0.90%
グループホーム	1	0.90%
デイサービス	1	0.90%

図②-1 他の研究内容と重複件数 (N=108)



②-2 研究方法の傾向

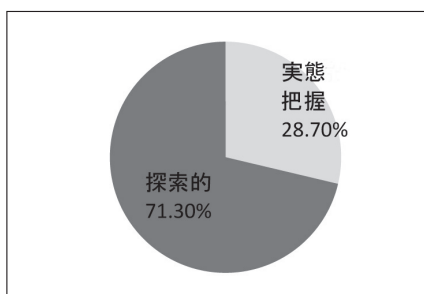
②-2-1 研究タイプ1の傾向

家族に関する研究108件における研究タイプ1別の件数及び比率は、「探索的研究」が77件(71.3%)であり全体の7割以上が「探索的研究」であり、「実態把握研究」は31件(28.7%)となっている。「探索的研究」の方が多いことがわかる。

表②-2-1 研究タイプ1

	件数	割合
実態把握	31	28.70%
探索的	77	71.30%
仮説検証型	0	0.00%
その他	0	0.00%
合計	108	100.00%

図②-2-1 研究タイプ1



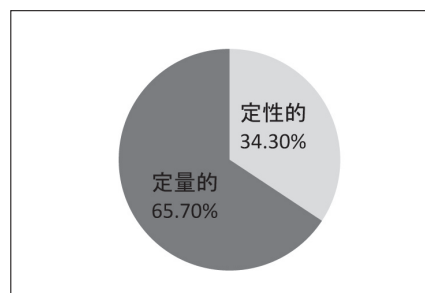
②1-2-2 研究タイプ2の傾向

家族に関する研究108件における研究タイプ2別の件数及び比率は、「定量的研究」が71件(65.7%)となっており全体の2/3程度となっている。「定性的研究」は37件で34.3%となっている。

表②-2-2 研究タイプ2

	件数	割合
定性的	37	34.30%
定量的	71	65.70%
定性的と定量的	0	0.00%
合計	108	100.00%

図②-2-2 研究タイプ2



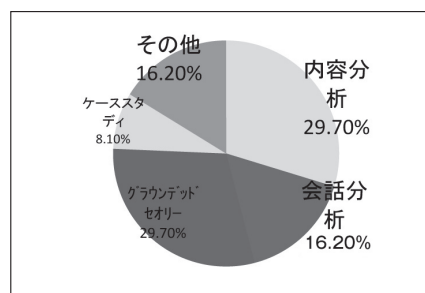
②1-2-3 定性的研究の種類

定性的研究を含んだ研究37件のうち、その研究種類は「内容分析」、「グラウンデッドセオリー」が11件で(29.7%)となっており、次いで「会話分析」、「その他」が6件(16.2%)となっている。さらに、「ケーススタディ」が3件(8.1%)となっている。

表②-2-3 定性的研究の種類

	件数	割合
内容分析	11	29.70%
会話分析	6	16.20%
エスノメソドロジー	0	0.00%
グラウンデッドセオリー	11	29.70%
ケーススタディ	3	8.10%
その他	6	16.20%
合計	37	100.00%

図②-2-3 定性的研究の種類



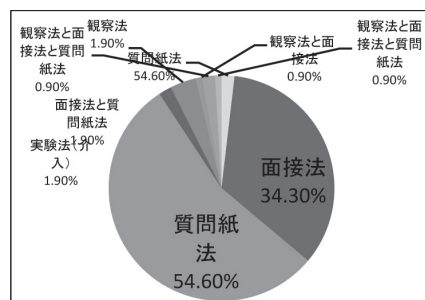
②1-2-4 研究方法の傾向

研究方法において、最も多いのは「質問紙法」であり、59件(54.6%)と全体の半数を超えている。次いで「面接法」が37件(34.3%)であり、「その他」が4件(3.7%)、「観察法」、「実験法(介入)」、「面接法と質問紙法」がそれぞれ2件(1.9%)となっている。

表②-2-4 研究方法

	件数	割合
観察法	2	1.90%
面接法	37	34.30%
質問紙法	59	54.60%
実験法(介入)	2	1.90%
その他	4	3.70%
観察法と面接法	1	0.90%
観察法と質問紙法	0	0.00%
面接法と質問紙法	2	1.90%
面接法とその他の方法	0	0.00%
質問紙法と介入法	0	0.00%
観察法と面接法と質問紙法	1	0.90%
観察法と質問紙法とその他の方法	0	0.00%
合計	108	100.00%

図②-2-4 研究方法



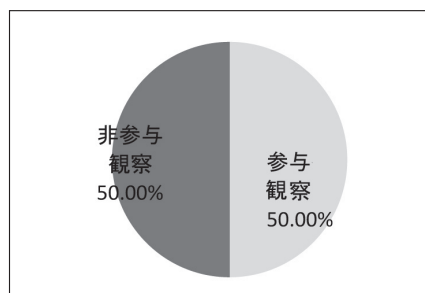
②1-2-5 観察法の種類

観察法を用いた研究4件のうち、「参与観察」が2件(50.0%)となっており、「非参与観察」が2件(50.0%)となっている。

表②1-2-5 観察法の種類

	件数	割合
参与観察	2	50.00%
非参与観察	2	50.00%
不明	0	0.00%
その他	0	0.00%
合計	4	100.00%

図②1-2-5 観察法の種類



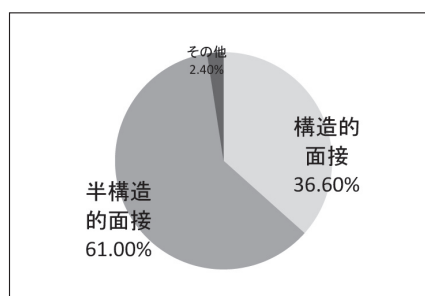
②1-2-6 面接法の種類

「面接法」を用いた研究41件のうち、「半構造的面接」が25件(61.0%)であり、「構造的面接」が15件(36.6%)、「その他の面接法」が1件(2.4%)となっている。

表②1-2-6 面接法の種類

	件数	割合
構造的面接	15	36.60%
半構造的面接	25	61.00%
グループインタビュー	0	0.00%
その他	1	2.40%
不明	0	0.00%
合計	41	100.00%

図②1-2-6 面接法の種類



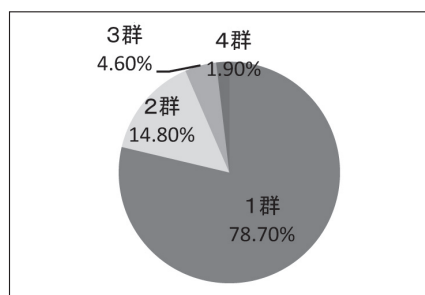
②1-2-7 対象群数の傾向

対象群数において、「1群」が85件(78.7%)となっており、全体の8割近くを占めている。次いで「2群」が16件(14.8%)、「3群」が5件(4.6%)、「4群」が2件(1.9%)となっている。

表②1-2-7 対象群数

	件数	割合
1群	85	78.70%
2群	16	14.80%
3群	5	4.60%
4群	2	1.90%
合計	108	100.00%

図②1-2-7 対象群数



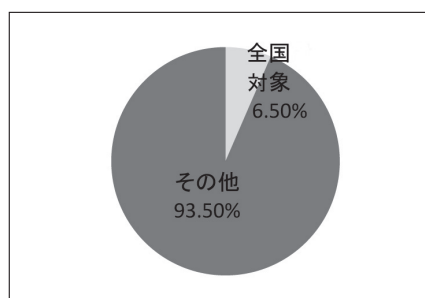
㊴-2-8 対象範囲の傾向

対象範囲については「全国対象」が7件(6.5%)であり、「その他」が101件(93.5%)であり、ほとんどが「その他」である。

表㊴-2-8 対象範囲

	件数	割合
全国対象	7	6.50%
その他	101	93.50%
合計	108	100.00%

図㊴-2-8 対象範囲



㊴-2-9 研究方法の基本属性に関する傾向

家族の研究において、実施期間の平均は60件中、241日であり、研究地域数の平均は79件中、1.58地域となっている。事業所数の平均は44件中、6.7事業所となっており、対象者人数の平均は106件中、518.3人となっている。

表㊴-2-9 研究方法の基本属性に関する平均値

	度数	最小値	最大値	平均値	標準偏差
実施期間 (日)	60	30	3300	241	518.733
研究地域数	79	1	11	1.58	1.692
事業所数	44	1	36	6.7	9.217
対象者人数 (人)	106	3	16177	518.3	1757.63

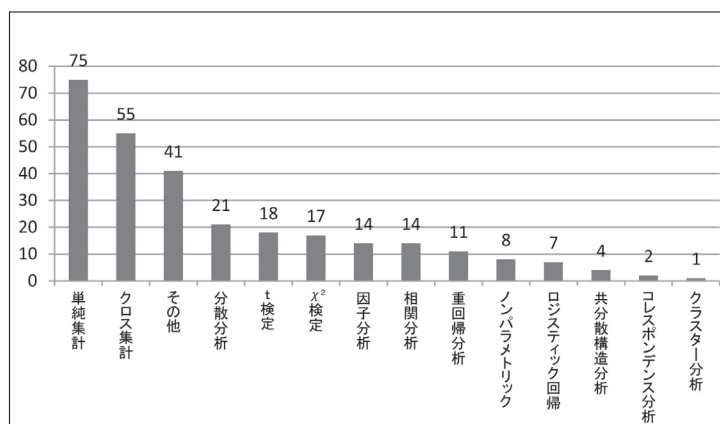
㊴-2-10 分析方法の件数

分析方法の件数は、「単純集計」が75件であり、69.4%となっている。次いで、「クロス集計」が55件(50.9%)となっており、さらに「その他」が41件(38.0%)、「分散分析」が21件(19.4%)、「t検定」が18件(16.7%)と続いている。

表㊴-2-10 分析方法の件数 (N=108)

研究内容	件数	重複割合 (%)
単純集計	75	69.40%
クロス集計	55	50.90%
その他	41	38.00%
分散分析	21	19.40%
t検定	18	16.70%
χ^2 乗検定	17	15.70%
因子分析	14	13.00%
相関分析	14	13.00%
重回帰分析	11	10.20%
ノンパラメトリック	8	7.40%
ロジスティック回帰	7	6.50%
共分散構造分析	4	3.70%
コレスポンデンス分析	2	1.90%
クラスター分析	1	0.90%

図㊴-2-10 分析方法の件数 (N=108)



② - 3 対象者属性の傾向

② - 3 - 1 平均年齢

平均年齢の傾向としては、90件の対象者の平均年齢は63.978歳であり、標準偏差は9.2114歳である。最大値は83.0歳、最小値は41.0歳となっている。

表② - 3 - 1 平均年齢

	平均値	度数	標準偏差	最小値	最大値
家族	63.978	90	9.2114	41.0	83.0

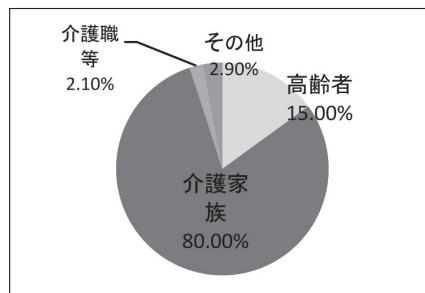
② - 3 - 2 対象者属性の傾向

対象者属性について、対象者の属性が「介護家族」が最も多く112件(80.0%)となっており、全体の8割を占めている。次いで「高齢者」が21件(15.0%)となっている。さらに、「その他」が4件(2.9%)、「介護職等」が3件(2.1%)となっている。

表② - 3 - 2 対象者属性

	高齢者	介護家族	介護職等	学生	その他	合計
件数	21	112	3	0	4	140
割合	15.00%	80.00%	2.10%	0.00%	2.90%	100.00%

図② - 3 - 2 対象者属性



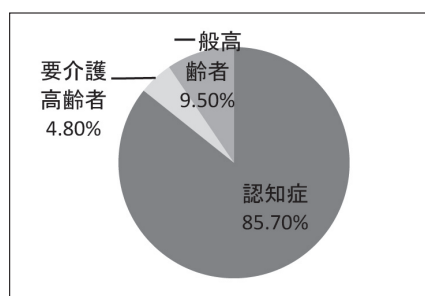
② - 3 - 3 高齢者属性の傾向

対象者属性が高齢者である21件の中で、高齢者属性は「認知症」が18件(85.7%)と最も多く、次いで「一般高齢者」が2件(9.5%)、「要介護高齢者」が1件(4.8%)となっている。

表② - 3 - 3 高齢者属性

	認知症	要介護高齢者	一般高齢者	混合	合計
件数	18	1	2	0	21
割合	85.70%	4.80%	9.50%	0.00%	100.00%

図② - 3 - 3 高齢者属性



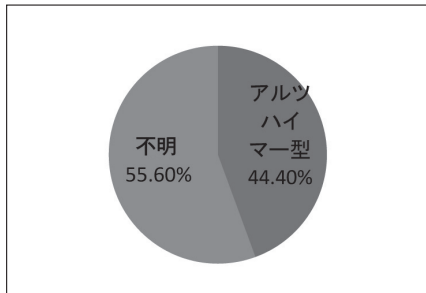
②1-3-4 認知症種類の傾向

認知症の種類について、高齢者属性に「認知症」がある18件において、「不明」が10件(55.6%)、「アルツハイマー型」が8件(44.4%)となっており、他の認知症種類はなかった。

表②-3-4 認知症種類

	アルツハイマー型	脳血管疾患型	レビー小体型	前頭側頭型 (ピック)	不明	その他	合計
件数	8	0	0	0	10	0	18
割合	44.40%	0.00%	0.00%	0.00%	55.60%	0.00%	100.00%

図②-3-4 認知症種類



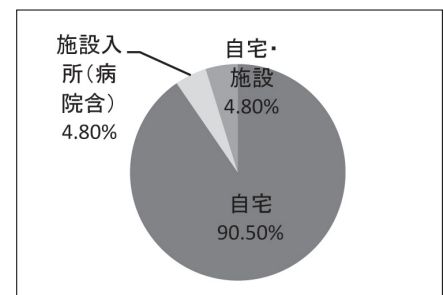
②1-3-5 所在の傾向

所在については、最も多いのは「自宅」であり19件(90.5%)とほとんどを占めている。他に「施設入所(病院含)」、「自宅・施設」がともに1件(4.8%)となっている。

表②-3-5 所在

	自宅	施設入所 (病院含)	その他	自宅・施設	不明	合計
件数	19	1	0	1	0	21
割合	90.50%	4.80%	0.00%	4.80%	0.00%	100.00%

図②-3-5 所在



②1-3-6 利用サービスの傾向

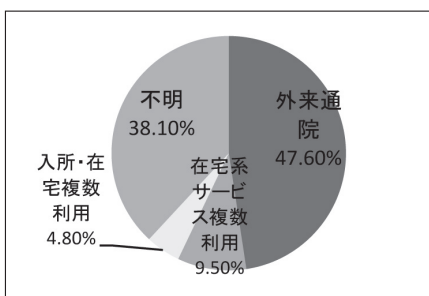
利用サービスについての傾向は、「外来通院」が10件(47.6%)と最も多く、次いで、「在宅系サービス複数利用」が2件(9.5%)、「入所・在宅系サービス複数利用」が1件(4.8%)となっている。

表②1-3-6 利用サービス

	ヘルパー	デイサービス	デイケア	小規模多機能	老人ホーム	老人保健施設	病院入院
件数	0	0	0	0	0	0	0
割合	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%

	グループホーム	その他	外来通院	入所系サービス 複数利用	在宅系サービス 複数利用	入所・在宅系サ ービス複数利用	不明	合計
件数	0	0	10	0	2	1	8	21
割合	0.00%	0.00%	47.60%	0.00%	9.50%	4.80%	38.10%	100.00%

図②1-3-6 利用サービス



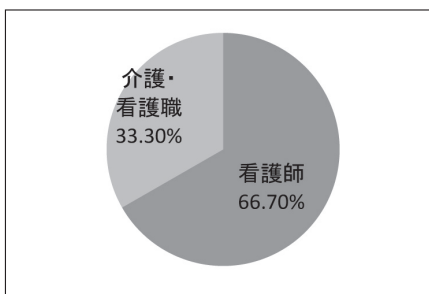
②1-3-7 職員種別の傾向

職員種別について、最も多いのは「看護師」であり、2件(66.7%)となっている。次いで、「介護・看護職」であり、1件(33.3%)となっている。

表②1-3-7 職員種別

	介護職員	ケアマネ	看護師	医師	相談員	ホームヘルパー	その他
件数	0	0	2	0	0	0	0
割合	0.00%	0.00%	66.70%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%
	介護・看護職	複数職種	合計				
	1	0	3				
	33.30%	0.00%	100.00%				

図②1-3-7 職員種別



㊸ マネジメント

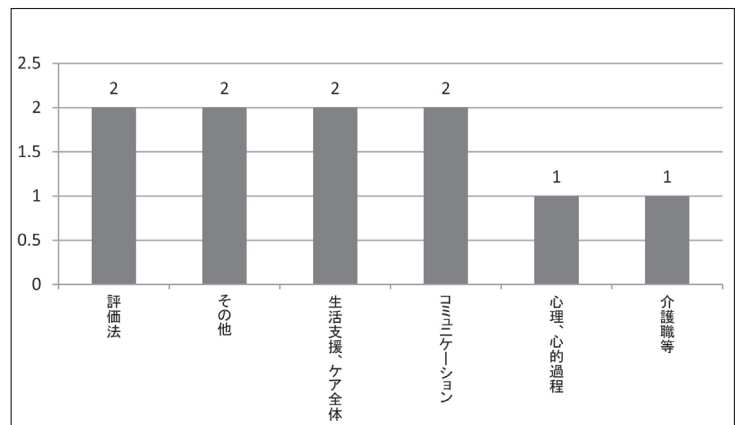
㊸ - 1 他の研究内容との重複

マネジメントに関連する研究 5 件のうち重複している研究内容では、「評価法」、「その他」、「生活支援、ケア全体」、「コミュニケーション」がそれぞれ 2 件（40.0%）となっている。次いで「介護職等」、「心理、心的過程」がともに 1 件（20.0%）となっている。

表㊸ - 1 他の研究内容との重複件数 (N=5)

研究内容分類	件数	重複割合 (%)
評価法	2	40.00%
その他	2	40.00%
生活支援、ケア全体	2	40.00%
コミュニケーション	2	40.00%
心理、心的過程	1	20.00%
介護職等	1	20.00%

図㊸ - 1 他の研究内容との重複件数 (N=5)



㊸ - 2 研究方法の傾向

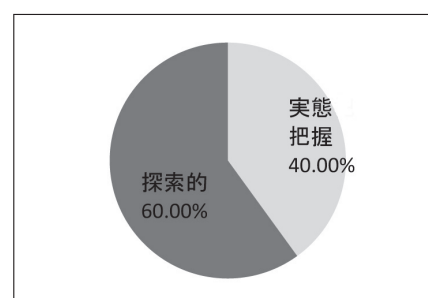
㊸ - 2 - 1 研究タイプ 1 の傾向

マネジメントに関する研究 5 件における研究タイプ 1 別の件数及び比率は、「探索的研究」が 3 件（60.0%）であり、「実態把握研究」は 2 件（40.0%）となっている。「探索的研究」のほうがやや多いことがうかがえる。

表㊸ - 2-1 研究タイプ 1

	件数	割合
実態把握	2	40.00%
探索的	3	60.00%
仮説検証型	0	0.00%
その他	0	0.00%
合計	5	100.00%

図㊸ - 2-1 研究タイプ 1



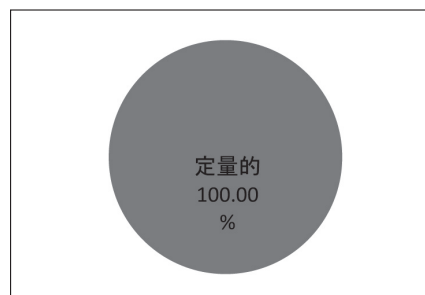
②-2-2 研究タイプ2の傾向

マネジメントに関する研究5件における研究タイプ2別の件数及び比率は、「定量的研究」のみが5件であり、「定性的研究」はなかった。

表②-2-2 研究タイプ2

	件数	割合
定性的	0	0.00%
定量的	5	100.00%
定性的と定量的	0	0.00%
合計	5	100.00%

図②-2-2 研究タイプ2



②-2-3 定性的研究の種類

定性的研究の種類について、定性的研究を用いた研究がなかったため、種類の結果は得られなかった。

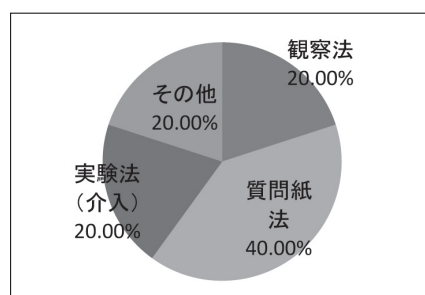
②-2-4 研究方法の傾向

研究方法において、最も多いのは「質問紙法」であり、2件(40.0%)であり、次いで「観察法」、「実験法（介入）」、「その他」がそれぞれ1件(20.0%)となっている。

表②-2-4 研究方法

	件数	割合
観察法	1	20.00%
面接法	0	0.00%
質問紙法	2	40.00%
実験法（介入）	1	20.00%
その他	1	20.00%
観察法と面接法	0	0.00%
観察法と質問紙法	0	0.00%
面接法と質問紙法	0	0.00%
面接法とその他の方法	0	0.00%
質問紙法と介入法	0	0.00%
観察法と面接法と質問紙法	0	0.00%
観察法と質問紙法とその他の方法	0	0.00%
合計	5	100.00%

図②-2-4 研究方法



㊸-2-5 観察法の種類

観察法を用いた研究は1件のみで、その種類は「非参与観察」であった。

表㊸-2-5 観察法の種類

	件数	割合
参与観察	0	0.00%
非参与観察	1	100.00%
その他	0	0.00%
不明	0	0.00%
合計	1	100.00%

図㊸-2-5 観察法の種類



㊸-2-6 面接法の種類

面接法の種類について、面接法を用いた研究がなかったため、種類の結果は得られなかった。

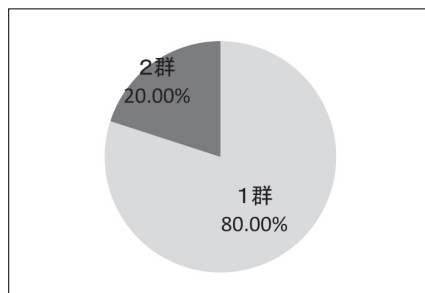
㊸-2-7 対象群数の傾向

対象群数において、「1群」が4件(80.0%)となっており、全体の8割を占めている。次いで「2群」が1件(20.0%)となっている。

表㊸-2-7 対象群数

	件数	割合
1群	4	80.00%
2群	1	20.00%
3群	0	0.00%
4群	0	0.00%
合計	5	100.00%

図㊸-2-7 対象群数



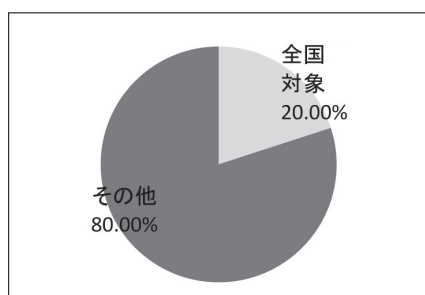
㊸-2-8 対象範囲の傾向

対象範囲については「全国対象」が1件(20.0%)であり、「その他」が4件(80.0%)であり、ほとんどが「その他」である。

表㊸-2-8 対象範囲

	件数	割合
全国対象	1	20.00%
その他	4	80.00%
合計	5	100.00%

図㊸-2-8 対象範囲



②-2-9 研究方法の基本属性に関する傾向

マネジメントの研究において、実施期間の平均は3件中、62.00日であり、研究地域数の平均は3件中、1.33地域となっている。事業所数の平均は4件中、51.00事業所となっており、対象者人数の平均は5件中、142.60人となっている。

表②-2-9 研究方法の基本属性に関する平均値

	度数	最小値	最大値	平均値	標準偏差
実施期間 (日)	3	6	90	62.00	48.497
研究地域数	3	1	2	1.33	0.577
事業所数	4	1	101	51.00	57.161
対象者人数 (人)	5	4	263	142.60	105.843

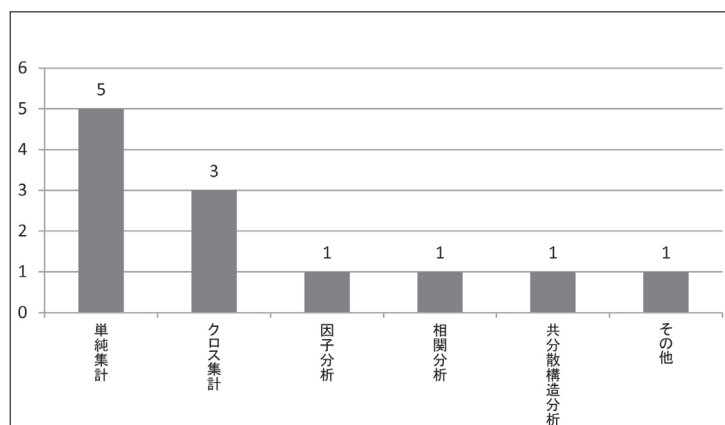
②-2-10 分析方法の件数

分析方法の件数は、「単純集計」が5件であり、全ての研究が「単純集計」を用いている。次いで、「クロス集計」が3件(60.0%)となっており、さらに「因子分析」、「相関分析」、「共分散構造分析」、「その他」がそれぞれ1件(20.0%)と続いている。

表②-2-10 分析方法の件数 (N=5)

研究内容	件数	重複割合 (%)
単純集計	5	100.00%
クロス集計	3	60.00%
因子分析	1	20.00%
相関分析	1	20.00%
共分散構造分析	1	20.00%
その他	1	20.00%

図②-2-10 分析方法の件数 (N=5)



②-3 対象者属性の傾向

②-3-1 平均年齢

平均年齢の傾向としては、平均年齢のある研究は1件のみで、88.000歳であった。

表②-3-1 平均年齢

	平均値	度数	標準偏差	最小値	最大値
マネジメント	88.000	1	.	88.0	88.0

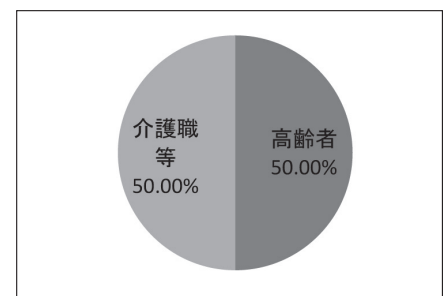
㊹-3-2 対象者属性の傾向

対象者属性について、「高齢者」、「介護職等」がそれぞれ3件（50.0％）であった。他の対象者の属性はなかった。

表㊹-3-2 対象者属性

	高齢者	介護家族	介護職等	学生	その他	合計
件数	3	0	3	0	0	6
割合	50.00%	0.00%	50.00%	0.00%	0.00%	100.00%

図-3-2 対象者属性



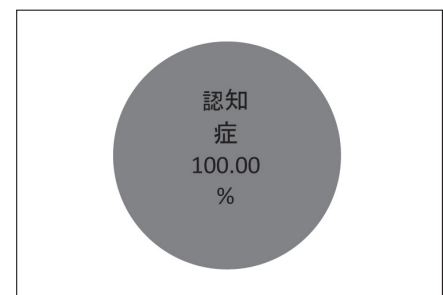
㊹-3-3 高齢者属性の傾向

対象者属性が高齢者である3件の中で、高齢者属性は「認知症」のみであり、他の高齢者属性はなかった。

表㊹-3-3 高齢者属性

	認知症	要介護高齢者	一般高齢者	混合	合計
件数	3	0	0	0	3
割合	100.00%	0.00%	0.00%	0.00%	100.00%

図㊹-3-3 高齢者属性



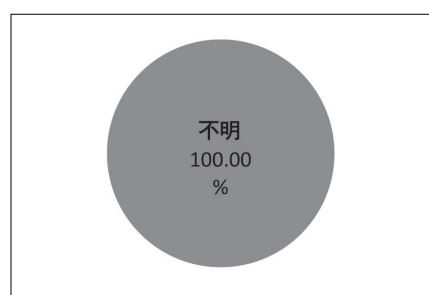
㊹-3-4 認知症種類の傾向

認知症の種類について、高齢者属性に「認知症」がある3件において、全てが「不明」であった。

表㊹-3-4 認知症種類

	アルツハイマー型	脳血管疾患型	レビー小体型	前頭側頭型 (ピック)	不明	その他	合計
件数	0	0	0	0	3	0	3
割合	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	100.00%	0.00%	100.00%

図㊹-3-4 認知症種類



②-3-5 所在の傾向

所在については、研究にあった3件全てが「施設入所(病院含)」であった。

表②-3-5 所在

	自宅	施設入所 (病院含)	その他	自宅・施設	不明	合計
件数	0	3	0	0	0	3
割合	0.00%	100.00%	0.00%	0.00%	0.00%	100.00%

図②-3-5 所在



②-3-6 利用サービスの傾向

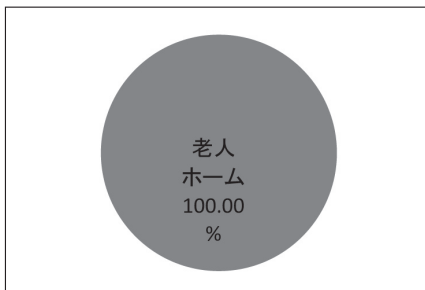
利用サービスについての傾向は、利用サービスのあった研究は3件のみで全てが「老人ホーム」であった。

表②-3-6 利用サービス

	ヘルパー	デイサービス	デイケア	小規模多機能	老人ホーム	老人保健施設	病院入院
件数	0	0	0	0	3	0	0
割合	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	100.00%	0.00%	0.00%

	グループホーム	その他	外来通院	入所サービス 複数利用	在宅サービス 複数利用	入所・在宅サー ビス複数利用	不明	合計
件数	0	0	0	0	0	0	0	3
割合	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	100.00%

図②-3-6 利用サービス



②-3-7 職員種別の傾向

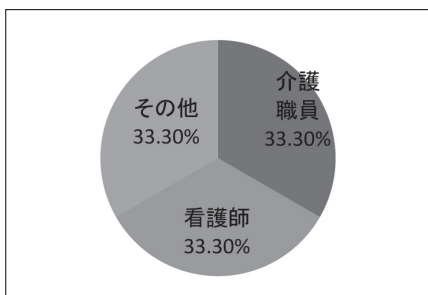
職員種別について、「介護職員」、「看護師」、「その他」がそれぞれ1件ずつで33.3%であった。

表②-3-7 職員種別

	介護職員	ケアマネ	看護師	医師	相談員	ホームヘルパー	その他
件数	1	0	1	0	0	0	1
割合	33.30%	0.00%	33.30%	0.00%	0.00%	0.00%	33.30%

介護・看護職	複数職種	合計
0	0	3
0.00%	0.00%	100.00%

図②-3-7 職員種別



②③ 人材育成

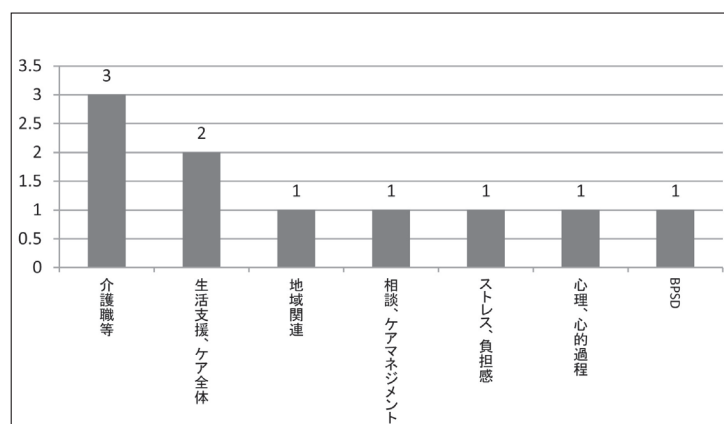
②③-1 他の研究内容との重複

人材育成に関連する研究 8 件のうち重複している研究内容では、「介護職等」が最も多く 3 件 (37.5%) となっている。次いで「生活支援・ケア全体」が 2 件 (25.0%) となっている。

表②③-1 他の研究内容との重複件数 (N=8)

研究内容分類	件数	重複割合 (%)
介護職等	3	37.50%
生活支援・ケア全体	2	25.00%
地域関連	1	12.50%
相談、ケアマネジメント	1	12.50%
ストレス、負担感	1	12.50%
心理、心的過程	1	12.50%
BPSD	1	12.50%

図②③-1 他の研究内容との重複件数 (N=8)



②③-2 研究方法の傾向

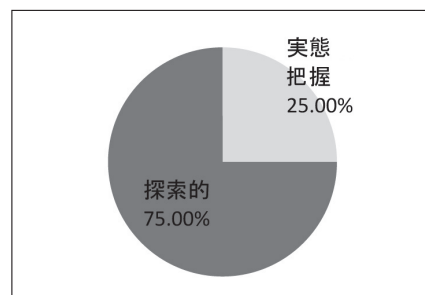
②③-2-1 研究タイプ1の傾向

人材育成に関する研究 8 件における研究タイプ 1 別の件数及び比率は、「探索的研究」が 6 件 (75.0%) であり、「実態把握研究」は 2 件 (25.0%) となっている。「探索的研究」は全体の 3/4 を占めている。

表②③-2-1 研究タイプ1

	件数	割合
実態把握	2	25.00%
探索的	6	75.00%
仮説検証型	0	0.00%
その他	0	0.00%
合計	8	100.00%

図②③-2-1 研究タイプ1



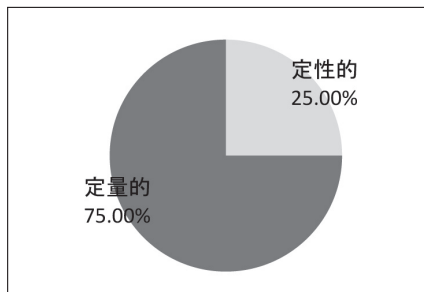
㊦-2-2 研究タイプ2の傾向

人材育成に関する研究8件における研究タイプ2別の件数及び比率は、「定量的研究」が6件(75.0%)であり、「定性的研究」は2件(25.0%)となっている。「定量的研究」は全体の3/4を占めている。

表㊦-2-2 研究タイプ2

	件数	割合
定性的	2	25.00%
定量的	6	75.00%
定性的と定量的	0	0.00%
合計	8	100.00%

図㊦-2-2 研究タイプ2



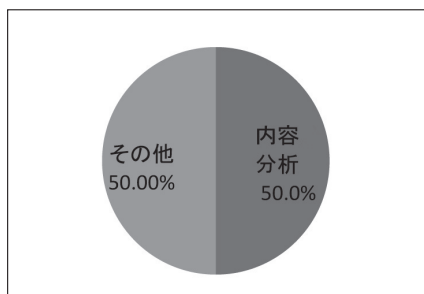
㊦-2-3 定性的研究の種類

定性的研究を用いた研究2件のうち、「内容分析」、「その他」がともに1件ずつで、それぞれ50.0%となっている。

表㊦-2-3 定性的研究の種類

	件数	割合
内容分析	1	50.00%
会話分析	0	0.00%
エスノメソドロギー	0	0.00%
グラウンデッドセオリー	0	0.00%
ケーススタディ	0	0.00%
その他	1	50.00%
合計	2	100.00%

図㊦-2-3 定性的研究の種類



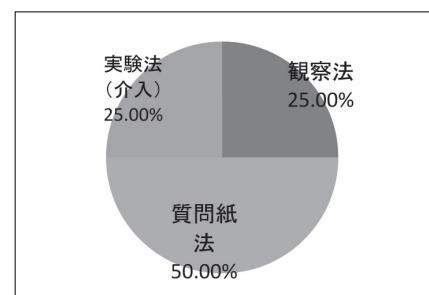
㊦-2-4 研究方法の傾向

研究方法において、最も多いのは「質問紙法」であり、4件(50.0%)であり、次いで「観察法」、「実験法(介入)」がそれぞれ2件(25.0%)となっている。

表㊦-2-4 研究方法

	件数	割合
観察法	2	25.00%
面接法	0	0.00%
質問紙法	4	50.00%
実験法(介入)	2	25.00%
その他	0	0.00%
観察法と面接法	0	0.00%
観察法と質問紙法	0	0.00%
面接法と質問紙法	0	0.00%
面接法とその他の方法	0	0.00%
質問紙法と介入法	0	0.00%
観察法と面接法と質問紙法	0	0.00%
観察法と質問紙法とその他の方法	0	0.00%
合計	8	100.00%

図㊦-2-4 研究方法



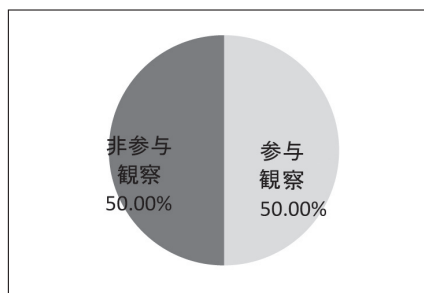
②3-2-5 観察法の種類

観察法を用いた研究は2件のみで、その種類は「参与観察」、「非参与観察」がともに1件(50.0%)であった。

表②3-2-5 観察法の種類

	件数	割合
参与観察	1	50.00%
非参与観察	1	50.00%
その他	0	0.00%
合計	2	100.00%

図②3-2-5 観察法の種類



②3-2-6 面接法の種類

面接法の種類について、面接法を用いた研究がなかったため、種類の結果は得られなかった。

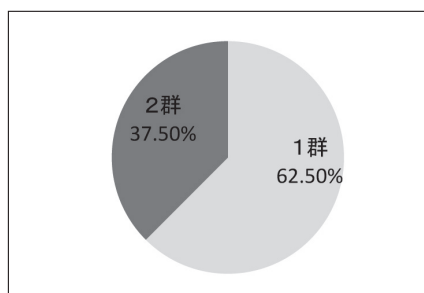
②3-2-7 対象群数の傾向

対象群数において、「1群」が5件(62.5%)となっており、次いで「2群」が3件(37.5%)となっている。他の群数はなかった。

表②3-2-7 対象群数

	件数	割合
1群	5	62.50%
2群	3	37.50%
3群	0	0.00%
4群	0	0.00%
合計	8	100.00%

図②3-2-7 対象群数



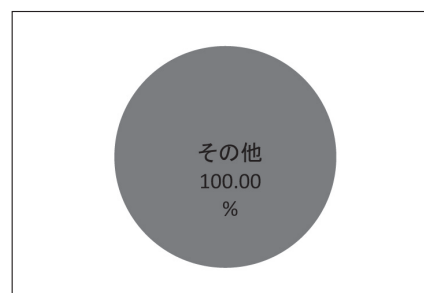
②3-2-8 対象範囲の傾向

対象範囲については「その他」のみが全てで8件だった。「全国対象」はなかった。

表②3-2-8 対象範囲

	件数	割合
全国対象	0	0.00%
その他	8	100.00%
合計	8	100.00%

図②3-2-8 対象範囲



㊸-2-9 研究方法の基本属性に関する傾向

人材育成の研究において、実施期間の平均は6件中、48.00日であり、研究地域数の平均は7件中、1.00地域となっている。事業所数の平均は7件中、5.14事業所となっており、対象者人数の平均は8件中、130.88人となっている。

表㊸-2-9 研究方法の基本属性に関する平均値

	度数	最小値	最大値	平均値	標準偏差
実施期間（日）	6	1	90	48.00	38.59
研究地域数	7	1	1	1.00	0
事業所数	7	1	30	5.14	10.961
対象者人数（人）	8	1	453	130.88	151.969

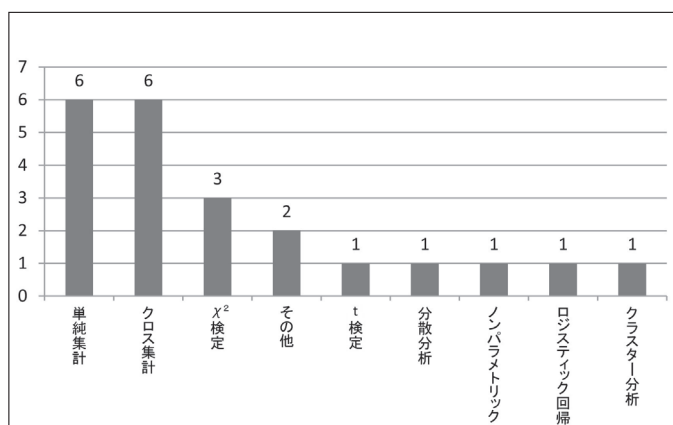
㊸-2-10 分析方法の件数

分析方法の件数は、「単純集計」、「クロス集計」がそれぞれ6件(75.0%)であった。次いで、「 χ^2 検定」が3件(37.5%)となっており、さらに「その他」が2件(25.0%)と続いている。

表㊸-2-10 分析方法の件数 (N=8)

研究内容	件数	重複割合 (%)
単純集計	6	75.00%
クロス集計	6	75.00%
χ^2 検定	3	37.50%
その他	2	25.00%
t検定	1	12.50%
分散分析	1	12.50%
ノンパラメトリック	1	12.50%
ロジスティック回帰	1	12.50%
クラスター分析	1	12.50%

図㊸-2-10 分析方法の件数 (N=8)



㊸-3 対象者属性の傾向

㊸-3-1 平均年齢

平均年齢の傾向としては、6件の対象者の平均年齢は54.767歳であり、標準偏差は24.9140歳、最大値は87.3歳、最小値は28.4歳であった。

表㊸-3-1 平均年齢

	平均値	度数	標準偏差	最小値	最大値
人材育成、教育	54.767	6	24.9140	28.4	87.3

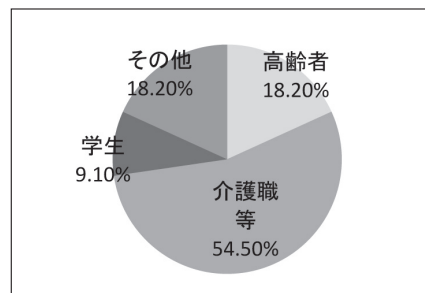
㉓-3-2 対象者属性の傾向

対象者属性について、「介護職等」が最も多く6件(54.5%)であり、次いで「高齢者」、「その他」が2件で18.2%であった。さらに「学生」が1件(9.1%)であった。

表㉓-3-2 対象者属性

	高齢者	介護家族	介護職等	学生	その他	合計
件数	2	0	6	1	2	11
割合	18.20%	0.00%	54.50%	9.10%	18.20%	100.00%

図㉓-3-2 対象者属性



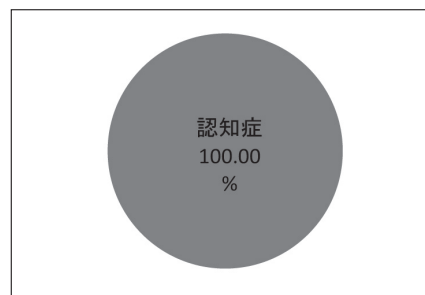
㉓-3-3 高齢者属性の傾向

対象者属性が高齢者である2件の中で、高齢者属性は「認知症」のみであり、他の高齢者属性はなかった。

表㉓-3-3 高齢者属性

	認知症	要介護高齢者	一般高齢者	混合	合計
件数	2	0	0	0	2
割合	100.00%	0.00%	0.00%	0.00%	100.00%

図㉓-3-3 高齢者属性



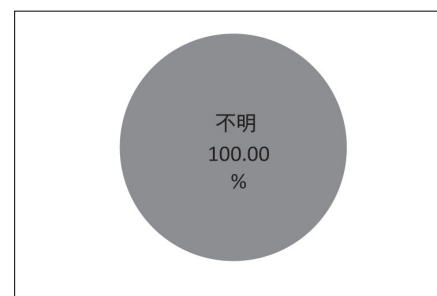
㉓-3-4 認知症種類の傾向

認知症の種類について、高齢者属性に「認知症」がある2件において、全てが「不明」であった。

表㉓-3-4 認知症種類

	アルツハイマー型	脳血管疾患型	レビー小体型	前頭側頭型(ピック)	不明	その他	合計
件数	0	0	0	0	2	0	2
割合	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	100.00%	0.00%	100.00%

図㉓-3-4 認知症種類



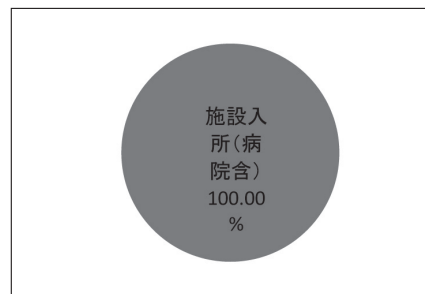
㊸-3-5 所在の傾向

所在については、研究にある2件全てが「施設入所(病院含)」であった。

表㊸-3-5 所在

	自宅	施設入所 (病院含)	その他	自宅・施設	不明	合計
件数	0	2	0	0	0	2
割合	0.00%	100.00%	0.00%	0.00%	0.00%	100.00%

図㊸-3-5 所在



㊸-3-6 利用サービスの傾向

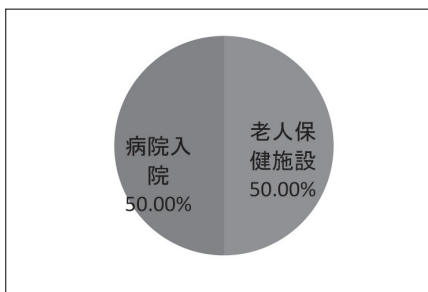
利用サービスについての傾向は、利用サービスのあった研究は2件のみで「老人保健施設」、「病院入院」がそれぞれ1件(50.0%)であった。

表㊸-3-6 利用サービス

	ヘルパー	デイサービス	デイケア	小規模多機能	老人ホーム	老人保健施設	病院入院
件数	0	0	0	0	0	1	1
割合	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	50.00%	50.00%

	グループホーム	その他	外来通院	入所系サービス 複数利用	在宅系サービス 複数利用	入所・在宅系サ ービス複数利用	不明	合計
件数	0	0	0	0	0	0	0	2
割合	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	100.00%

図㊸-3-6 利用サービス



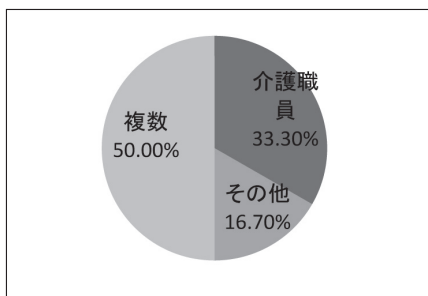
㊦-3-7 職員種別の傾向

職員種別について、「複数」が最も多く3件(50.0%)であり、「介護職員」が2件(33.3%)、「その他」が1件で16.7%であった。

表㊦-3-7 職員種別

	介護職員	ケアマネ	看護師	医師	相談員	ホームヘルパー
件数	2	0	0	0	0	0
割合	33.30%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%
	その他	介護・看護職	複数	合計		
	1	0	3	6		
	16.70%	0.00%	50.00%	100.00%		

図㊦-3-7 職員種別



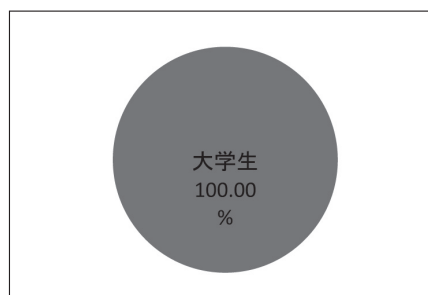
㊦-3-8 学生種別の傾向

学生種別について、研究にあるものは1件のみであり種別は「大学生」であった。

表㊦-3-8 学生種別

	大学生	専門学校・短大生	高校生	中学生	小学生	その他	合計
件数	1	0	0	0	0	0	1
割合	100.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	100.00%

図㊦-3-8 学生種別



②④評価法

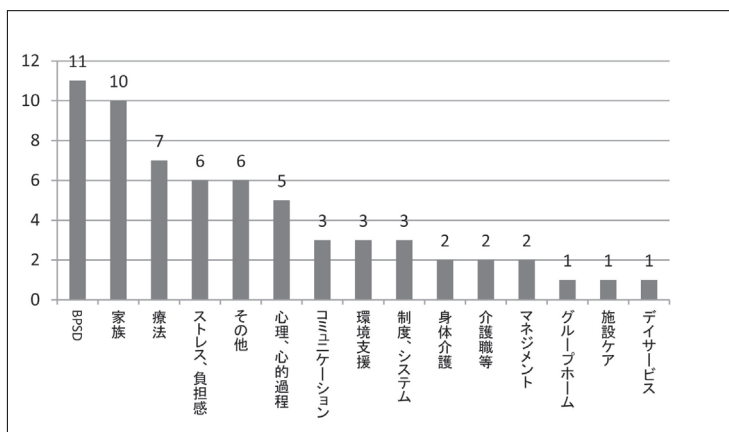
②④-1 他の研究内容との重複

評価法に関連する研究79件のうち重複している研究内容では、「BPSD」が最も多く11件(13.9%)となっている。次いで「家族」が10件(12.7%)となっている。さらに、「療法」が7件(8.9%)、「ストレス、負担感」、「その他」がともに6件(7.6%)と続いている。

表②④-1 他の研究内容との重複件数 (N=79)

研究内容分類	件数	重複割合 (%)
BPSD	11	13.90%
家族	10	12.70%
療法	7	8.90%
ストレス、負担感	6	7.60%
その他	6	7.60%
心理、心的過程	5	6.30%
コミュニケーション	3	3.80%
環境支援	3	3.80%
制度、システム	3	3.80%
身体介護	2	2.50%
介護職等	2	2.50%
マネジメント	2	2.50%
グループホーム	1	1.30%
施設ケア	1	1.30%
デイサービス	1	1.30%

図②④-1 他の研究内容との重複件数 (N=79)



②④-2 研究方法の傾向

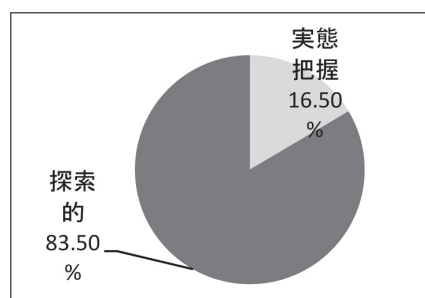
②④-2-1 研究タイプ1の傾向

評価法に関する研究79件における研究タイプ1別の件数及び比率は、「探索的研究」が66件(83.5%)であり、「実態把握研究」は13件(16.5%)となっている。「探索的研究」は全体の8割以上を占めている。

表②④-2-1 研究タイプ1

	件数	割合
実態把握	13	16.50%
探索的	66	83.50%
仮説検証型	0	0.00%
その他	0	0.00%
合計	79	100.00%

図②④-2-1 研究タイプ1



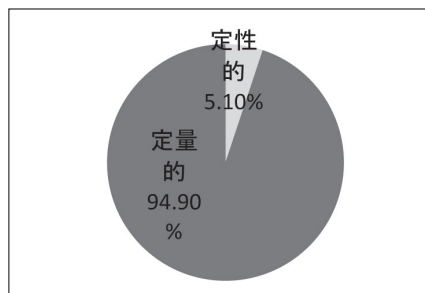
④-2-2 研究タイプ2の傾向

評価法に関する研究79件における研究タイプ2別の件数及び比率は、「定量的研究」が75件(94.9%)であり、「定性的研究」は4件(5.1%)となっている。「定量的研究」がほとんどの研究を占めている。

表④-2-2 研究タイプ2

	件数	割合
定性的	4	5.10%
定量的	75	94.90%
定性的と定量的	0	0.00%
合計	79	100.00%

図④-2-2 研究タイプ2



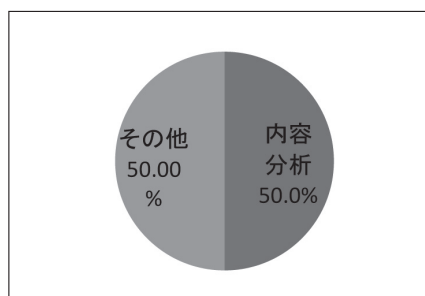
④-2-3 定性的研究の種類

定性的研究を用いた研究4件のうち、「内容分析」、「その他」がともに2件ずつで、それぞれ50.0%となっている。

表④-2-3 定性的研究の種類

	件数	割合
内容分析	2	50.00%
会話分析	0	0.00%
エスノメソドロジー	0	0.00%
グラウンデッドセオリー	0	0.00%
ケーススタディ	0	0.00%
その他	2	50.00%
合計	4	100.00%

図④-2-3 定性的研究の種類



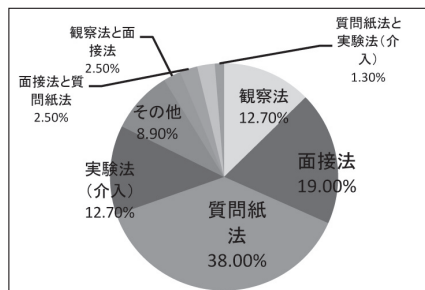
④-2-4 研究方法の傾向

研究方法において、最も多いのは「質問紙法」であり、30件(38.0%)であり、次いで「面接法」が15件(19.0%)となっており、さらに「観察法」、「実験法(介入)」がそれぞれ10件(12.7%)となっている。

表④-2-4 研究方法

	件数	割合
観察法	10	12.70%
面接法	15	19.00%
質問紙法	30	38.00%
実験法(介入)	10	12.70%
その他	7	8.90%
観察法と面接法	2	2.50%
観察法と質問紙法	0	0.00%
面接法と質問紙法	2	2.50%
面接法とその他の方法	2	2.50%
質問紙法と実験法(介入)	1	1.30%
観察法と面接法と質問紙法	0	0.00%
観察法と質問紙法とその他の方法	0	0.00%
合計	79	100

図④-2-4 研究方法



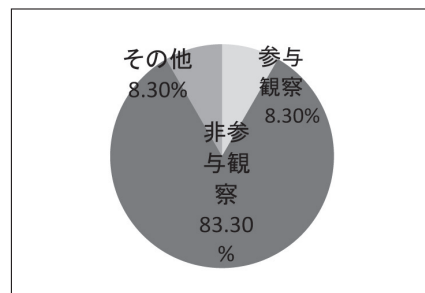
④-2-5 観察法の種類

観察法を用いた研究は12件で、その種類は「非参与観察」が10件(83.3%)で最も多く、「参与観察」、「その他の観察法」がともに1件(8.3%)であった。

表④-2-5 観察法の種類

	件数	割合
参与観察	1	8.30%
非参与観察	10	83.30%
その他	1	8.30%
合計	12	100.00%

図④-2-5 観察法の種類



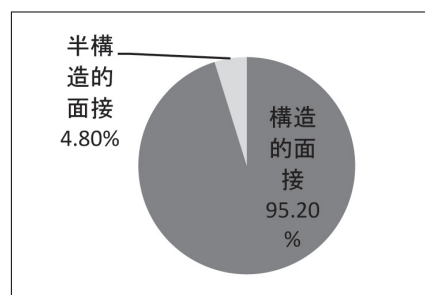
④-2-6 面接法の種類

面接法を用いた研究は21件で、その種類は「構造的面接」が20件(95.2%)で最も多く、全体のほとんどを占めている。「半構造的面接」は1件(4.8%)であった。

表④-2-6 面接法の種類

	件数	割合
構造的面接	20	95.20%
半構造的面接	1	4.80%
グループインタビュー	0	0.00%
その他	0	0.00%
合計	21	100.00%

図④-2-6 面接法の種類



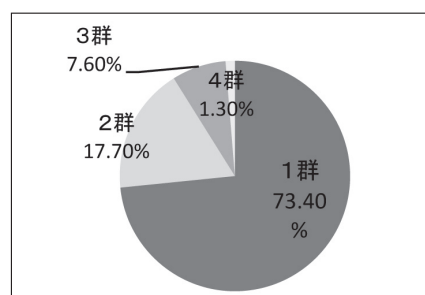
④-2-7 対象群数の傾向

対象群数において、「1群」が58件(73.4%)となっており、次いで「2群」が14件(17.7%)となっている。さらに、「3群」が6件(7.6%)、「4群」が1件(1.3%)となっている。

表④-2-7 対象群数

	件数	割合
1群	58	73.40%
2群	14	17.70%
3群	6	7.60%
4群	1	1.30%
合計	79	100.00%

図④-2-7 対象群数



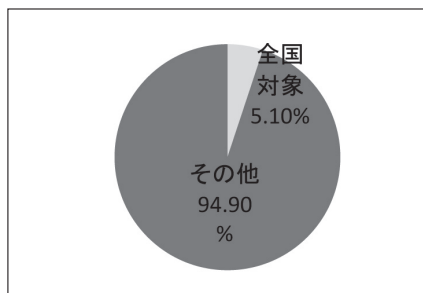
④-2-8 対象範囲の傾向

対象範囲については「全国対象」が4件(5.1%)であり、「その他」が75件(94.9%)だった。ほとんどの研究が「その他」であった。

表④-2-8 対象範囲

	件数	割合
全国対象	4	5.10%
その他	75	94.90%
合計	79	100.00%

図④-2-8 対象範囲



④-2-9 研究方法の基本属性に関する傾向

評価法の研究において、実施期間の平均は36件中、123.97日であり、研究地域数の平均は49件中、2.06地域となっている。事業所数の平均は48件中、15.94事業所となっており、対象者人数の平均は78件中、393.37人となっている。

表④-2-9 研究方法の基本属性に関する平均値

	度数	最小値	最大値	平均値	標準偏差
実施期間 (日)	36	1	450	123.97	116.862
研究地域数	49	1	31	2.06	4.389
事業所数	48	1	367	15.94	55.198
対象者人数 (人)	78	3	9296	393.37	1170.419

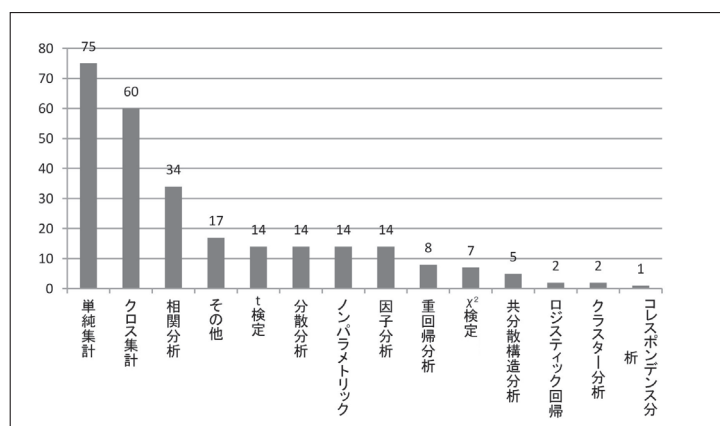
④-2-10 分析方法の件数

分析方法の件数は、「単純集計」が75件(94.9%)で最も多く、次いで「クロス集計」が60件(75.9%)であった。さらに、「相関分析」が34件(43.0%)、「その他」が17件(21.5%)、「t検定」、「分散分析」、「ノンパラメトリック」、「因子分析」がそれぞれ14件(17.7%)と続いている。

表④-2-10 分析方法の件数 (N=79)

研究内容	件数	重複割合 (%)
単純集計	75	94.90%
クロス集計	60	75.90%
相関分析	34	43.00%
その他	17	21.50%
t検定	14	17.70%
分散分析	14	17.70%
ノンパラメトリック	14	17.70%
因子分析	14	17.70%
重回帰分析	8	10.10%
χ^2 検定	7	8.90%
共分散構造分析	5	6.30%
ロジスティック回帰	2	2.50%
クラスター分析	2	2.50%
コレスポンデンス分析	1	1.30%

図④-2-10 分析方法の件数 (N=79)



④ - 3 対象者属性の傾向

④ - 3 - 1 平均年齢

平均年齢の傾向としては、85件の対象者の平均年齢は75.107歳であり、標準偏差は11.0350歳、最大値は89.5歳、最小値は38.1歳であった。

表④ -3-1 平均年齢

	平均値	度数	標準偏差	最小値	最大値
評価法	75.107	85	11.0350	38.1	89.5

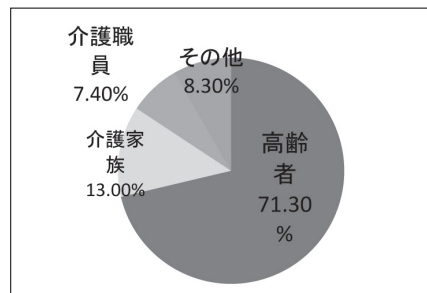
④ - 3 - 2 対象者属性の傾向

対象者属性について、「高齢者」が最も多く、77件(71.3%)であり、次いで「介護家族」が14件(13.0%)、「その他」が9件(8.3%)、「介護職等」が8件(7.4%)であった。

表④ -3-2 対象者属性

	高齢者	介護家族	介護職等	その他	合計
件数	77	14	8	9	108
割合	71.30%	13.00%	7.40%	8.30%	100.00%

図④ -3-2 対象者属性



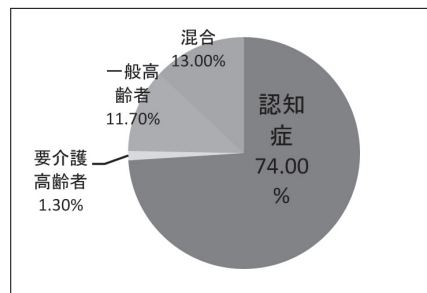
④ - 3 - 3 高齢者属性の傾向

対象者属性が高齢者である77件の中で、高齢者属性は「認知症」が最も多く57件(74.0%)である。次いで、「混合」が10件(13.0%)、「一般高齢者」が9件(11.7%)、「要介護高齢者」が1件(1.3%)となっている。

表④ -3-3 高齢者属性

	認知症	要介護高齢者	一般高齢者	混合	合計
件数	57	1	9	10	77
割合	74.00%	1.30%	11.70%	13.00%	100.00%

図④ -3-3 高齢者属性



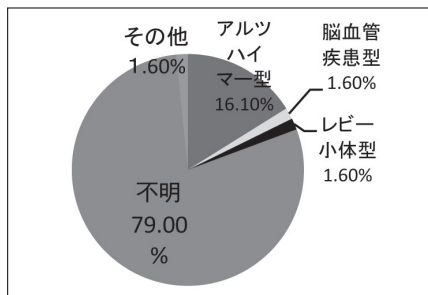
⑭-3-4 認知症種類の傾向

認知症の種類について、「不明」が最も多く49件(79.0%)であり、次いで、「アルツハイマー型」が10件(16.1%)であり、さらに、「脳血管疾患型」、「レビー小体型」、「その他」がそれぞれ1件(1.6%)となっている。

表⑭-3-4 認知症種類

	アルツハイマー型	脳血管疾患型	レビー小体型	前頭側頭型(ピック)	不明	その他	合計
件数	10	1	1	0	49	1	62
割合	16.10%	1.60%	1.60%	0.00%	79.00%	1.60%	100.00%

図⑭-3-4 認知症種類



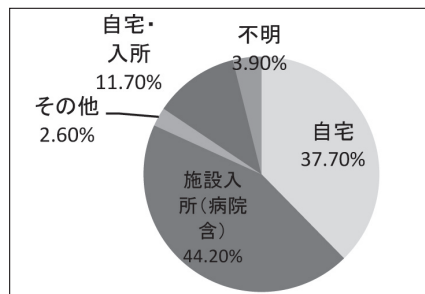
⑭-3-5 所在の傾向

所在については、最も多いのは「施設入所(病院含)」であり、34件で、44.2%となっている。次いで「自宅」29件(37.7%)であり、さらに、「自宅・施設」が9件(11.7%)、「不明」が3件(3.9%)、「その他」が2件(2.6%)となっている。

表⑭-3-5 所在

	自宅	施設入所(病院含)	その他	自宅・施設	不明	合計
件数	29	34	2	9	3	77
割合	37.70%	44.20%	2.60%	11.70%	3.90%	100.00%

図⑭-3-5 所在



④-3-6 利用サービスの傾向

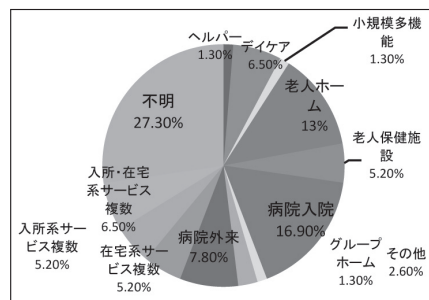
利用サービスについての傾向は、「病院入院」が13件(16.9%)と多く、さらに「老人ホーム」が10件(13.0%)、「外来通院」が6件(7.8%)、「デイケア」、「入所・在宅サービス複数利用」がともに5件(6.5%)と続いている。

表④-3-6 利用サービス

	ヘルパー	デイサービス	デイケア	小規模多機能	老人ホーム	老人保健施設	病院入院
件数	1	0	5	1	10	4	13
割合	1.30%	0.00%	6.50%	1.30%	13.00%	5.20%	16.90%

グループホーム	その他	外来通院	入所系サービス複数利用	在宅系サービス複数利用	入所・在宅系サービス複数利用	不明	合計
1	2	6	4	4	5	21	77
1.30%	2.60%	7.80%	5.20%	5.20%	6.50%	27.30%	100.00%

図④-3-6 利用サービス



④-3-7 職員種別の傾向

職員種別について、「介護職員」、「看護師」がともに3件(37.5%)、「複数職種」が2件で25.0%であった。

表④-3-7 職員種別

	介護職員	ケアマネ	看護師	医師	相談員	ホームヘルパー	その他
件数	3	0	3	0	0	0	0
割合	37.50%	0.00%	37.50%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%

介護・看護職	複数職種	合計
0	2	8
0.00%	25.00%	100.00%

図④-3-7 職員種別

